

志教育の視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☐はたす
--------	----------------------

活動名	「進路決定者・卒業生のお話を聞く会」
教科・領域等	総合的な探究の時間
活動学年等	1年次・2年次
ねらい	進路決定者（就職5名・進学1名）と卒業生（就職4名・進学2名）から進路決定をするまでの経緯、就職活動や進学準備の状況、在学中にやるべきこと等のアドバイスを聞くことで、卒業後どのように生きていきたいか、進路選択についてより具体的に考えられるようにする。そして、今何をすべきか自覚できるようになることをねらいとする。

【実践内容】

- 1 実施日 進路決定者の話を聞く会 令和5年12月21日（木）
卒業生のお話を聞く会 令和6年1月11日（木）

2 活動の流れ

- 〈1〉開会行事
- 〈2〉講師紹介… 講師の進路決定先や勤務先・進学先のスライドを交えながら、教員が紹介を行う。
- 〈3〉講話… 企業・学校を選んだ理由、進路達成へ向けて行った努力、新生活の感想、在学中にやっておくべきことなどを中心に話をしてもらう。
- 〈4〉質疑応答… 講話が終わる毎に時間をとる。
- 〈5〉お礼の言葉
- 〈6〉感想の記入
- 〈7〉閉会行事

3 指導上の工夫

進路ガイダンスや進路講話を行い、進路の方向性や疑問・不安を整理し、この会をきっかけに、高校生活に慣れるという段階から卒業後の進路を意識する段階への移行を図る。

4 生徒の感想（一部抜粋）

進路決定者の話を聞く会	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の積み重ね、自分について、相手（企業、学校）について理解を深めることも就職、進学するにあたって大切なことなんだと改めて実感することができ、良い機会になったなと思った。いまからでも自分でできることはたくさんあると思うので無理のない範囲で自分もまねできる部分があればまねして将来につなげられたらいいなと思いました。 ・オープンキャンパスや面接練習などの人とのつながりがとても重要だということが伝わってきました。とくに自己理解ノートのアイデアがとてもすばらしいと思いました。自分も自己肯定感が高い方ではないため参考にさせていただきたいと思いました。また、自分は人前で話すのが苦手なので、面接練習に力を入れようと思いました。 ・進学と就職、目指したいものなど、全員が異なる進路だったが、共通して“自分のやりたいことができるか、好きなことであるか”を重視していて、自分もそれを大事にしつつその先の将来を考えながら、今後確立していきたい。また、今までAO入試をあまり視野に入れていなかったが、少し興味が湧いたので調べてみようと思う。 ・オープンキャンパスや見学をして直接自分で見て、見きわめることが大切だと分かった。進学をする先輩たちのAOでの入学方法などが参考になった。自分のことをよく知り自己理解をすることで、進路に向けて活動していくことが必要だと知った。「完璧を目指さない」事は、本当に大切なことだと思った。
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

卒業生の話を聞く会

- ・就職においても進学においても高校生活やバイト経験を活かすも殺すも本当に自分次第なんだなと思った。1つ1つの小さな積み重ねも卒業につながっていくので、今からでも色々な場合を考えた進路を自分なりにたくさん調べたり探したりして柔軟に動いていけるようにしたい。
- ・全員が系統の異なる職種、進学先だったが、共通して面接の練習に力を入れ勉強や授業への出席を頑張ると良いとおっしゃっていた。面接に関しては進路決定した先輩方も特に重視したという話だったため、自分もしっかり生かしたいと思う。
- ・高校生のうちにやっておいた方が良い事は、人と多く関わること、ボランティアや実行委員会に積極的に参加すること、将来のために勉強すること等今の自分があまりできていないことが多く挙げられていて参考になりました。

5 成果と課題

本校は単位制高校のため、1年次から3多年次の生徒が同じ教室で授業を受けている。在校生たちにとって、同じ授業を受けてきた仲の良い先輩の話は、感覚が近いこともあり受け入れやすく、進路実現に向けた動きを具体的に想像する助けになったように思う。

進路決定者の話を聞く会では、年次内での発表をもとに、就職・進学とも意欲的に取り組み、発表の内容が充実していた生徒を講師としたこともあり、1・2年次の生徒は自らの進路についてイメージを膨らませるだけでなく、授業やその他の活動含めた学校生活全般に向かっていく意識を変えた様子を見せた。

また、卒業生の話を聞く会では、進学・就職までの道のりや実際に経験してみたうえで実感していることなど進路の選択や準備を考えて行く参考になることを話していただいた。特に、合格するために必要なこと、頑張っておけばよかったことなどの話は、生徒自身が自分の学校生活を省みるきっかけにもなり、卒業を控えた生徒たちへの進路指導・生徒指導において意義のある時間になった。

課題としては、進路活動に消極的な生徒への働きかけが挙げられる。本校では、3年での卒業を目指す生徒と4年以上かけてじっくりと卒業を目指す生徒が同じ時間、同じ教室で話を聞くことから、進路活動に対するスピード感が一人一人異なっている。そのため、自分にとって就職や進学が「将来の話」と遠い未来のイメージを持っている生徒は積極的に聞こうとする意識が欠けている場合がある。

進路決定者や卒業生からいただく話は日々の授業などの学校生活への積極的な参加を促すものもあるため、生徒には是非聞いてもらいたいものである。年に1度聞くだけの会で終わらせるのではなく、講話の内容を学校生活の中で何度も引用して聞かせたり、内容を要約したものや発表者の原稿を掲示するなど、進路決定者や卒業生からの話を生徒たちが日常的に意識できるかたちで活用していくことが方法の一つとして挙げられる。この会を自らの進路活動やそれにつながる学校生活を意識する機会とし、積極的な姿勢を身につけさせることに活用したい。

